

大阪ごみを考える通信

NPO 法人 大阪ごみを考える会
<http://osaka-gomi.sakura.ne.jp/>
【連絡先】吹田市江坂町 4-23-7-309 水川方
TEL/FAX (06) 6338-3908
EMAIL : info@osaka-gomi.sakura.ne.jp
【郵便口座】00960-9-25143

2025年度 NO. 1 2025. 5. 31

目次

1. 水問題研修会

(続) 大ピンチ!! 「日本の水の安全神話」

どうする?! 永遠の化学物質 PFAS 汚染と水道管老朽化問題

PFAS 汚染と水道管老朽化問題の2つのテーマで開催された水問題研修会の続編をお届けします。PFAS の汚染は連日、メディアで報道されています。関西に住む私たちは摂津市のダイキン工業の話題が他人事とは思えません。新しい情報の敏感であらねばと思います。こと飲み水である水道水は安全であると思込んでいます。水道管老朽化問題も深刻です。水道水をめぐる状況はいかに変化していくのでしょうか?

2. 食用廃油→SAF へ 大阪府内の自治体の取り組み

EUではSAF (=持続可能な航空燃料) の割合を2030年までに10%に増加させることを宣言。SAFのタイブリ規制が強まる傾向があります。日本でも国土交通省が2030年時点のSAF使用量として「本邦エアラインによる燃料使用量の10%をSAFに置き換える」との目標を設定しています。そのため、国内でSAF生産工場の建設が進んでおり、各自治体は企業と連携を深め協定を結ぶところが増えていきます。

3. 食用廃油の航空燃料化は幻影

食用廃油は、これまで石けんの材料や鶏の飼料になっていたものが一転、SAF=航空燃料となり航空機を飛ばす燃料になる時代がやってきました。鶏の飼料に使用できなければ、輸入の飼料に頼るのか、卵の値段は上がるのか、など生産現場での混乱も予想できます。廃油リサイクルが抱える現在地をネット検索により探ります。

4. 加藤さんのコラム 「〇〇さん」

懲役と禁錮をなくし、新たに「拘禁刑」を創設する改正刑法が6月1日、施行されました。これにより「懲らしめ」から「立ち直り」に軸足を移す刑事政策の一大転換です。刑務所内での不適切な呼称が問題視され、人権意識の希薄さ

水問題研修会

(続) 大ピンチ!! 「日本の水の安全神話」

どうする?! 永遠の化学物質 PFAS (ピーファス) 汚染と水道管老朽化問題

<PFAS 汚染>

水問題研修会 (2025 年 3 月 23 日) の末田一秀さんの話を、前号に続き報告します。

環境省調査 (河川及び地下水)

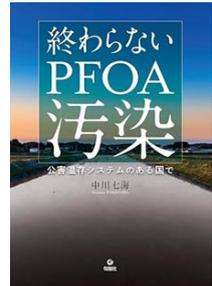
環境省が行った PFOS、PFOA の環境調査で、基準値 (50ng/l が暫定基準) を超えた地点が発表されています。PFOS と PFOA の合計で、地下水では、2019 年に大阪府摂津市で 1855.6ng/l が検出され、2020 年には大阪市内で 5500 ng/l が検出されました。

ダイキン工業淀川製作所で PFOA を製造していた

大阪府摂津市にあるダイキン淀川製作所では、1960 年後半から PFOA を使用、1980 年から PFOA の製造を開始、世界 8 大メーカーのひとつに成長しました。1999 年 11 月に下水に接続、「安威川流域下水道中央みらいセンター」を通じて安威川に放出を始めました。2012 年に製造・使用を全廃し、その後、敷地内で地下水をくみ上げて活性炭処理後、下水放流を続けています。

社外秘文書

2005 年にダイキン従業員から小泉昭夫 (京大名誉教授) に内部告発文書として送った「社外秘文書」が存在することが「終わらない PFOA 汚染 中川七海著」に書かれています。それによると、2002 年の PFOA 排出量は、排水として下水処理量約 9 トン、除外塔より大気に排出約 3 トンとあります。



ダイキン周辺住民の血中濃度

2023 年暮れ~2024 年春にかけて「大阪 PFAS 汚染と健康を考える会」と京大の原田浩二研究室によって、大阪府在住か職場が大阪府内の 1190 人を対象に行われた血中濃度調査の結果を「大阪 PFAS 汚染と健康を考える会」が 2024 年 8 月 11 日に公表しました。摂津市と東淀川区で平均値 8ng/ml、東淀川区以外の大阪市で平均値 5.5ng/ml がみられ、環境省の調査での全国平均は 2.2 ng/ml です。

環境省調査 (水道水)

2024 年 5 月水道事業、水道用水供給事業及び専用水道を対象に「水道における PFOS 及び PFOA に関する調査」を行った結果が 2024 年 11 月に公表されました。暫定目標値を超過した事業は、2020 年度は 11 事業でしたが、年々減少し、2023 年は 3 事業、2024 年 9 月 30 日時点は 0 事業でした。なお、2023 年までのいずれかで暫定目標値を超過した全 14 事業において、最新の検査結果では、すべて暫定目標値を下回っているとの報告がありました。

吉備中央町の PFAS 汚染

岡山県吉備中央町の水道水から 2021 年度 1200 ng/l、2022 年度 1400 ng/l もの PFAS が検出されていました。2023 年度 10 月、県の職員に指摘されて飲用中止に至りましたが、その間 3 年間もの間放置

されていたのです。吉備中央町にはリサイクル工場があり、その企業が、町外から持ち込んだ PFOA を含んだ活性炭を水道水の原水となる川の上流地点に野積みしていたのが原因とされています。

<どうなる？「日本の水の安全神話」水道管老朽化問題>

NPO 法人水政策研究所の田中淳司さんから話を聞きました。

大阪市水道局では約 170 万世帯、給水人口約 270 万人の水道水を供給しています。導・送・配水管の総延長は約 5,200 km（北海道から沖縄までの距離の約 2 倍）あります。

管路網の形成経過と老朽管率の関係（他都市比較）

大阪市では、法定耐用年数 40 年経過（老朽管の定義）の目途となる 1970 年代に、約 9 割の水道管が布設済み（高度成長期に急速な管網形成プロセスをたどってきた大阪市特有の課題）で、老朽管率は約 45%と、全国平均（14.8%）、大都市平均（約 16%）に比べ、突出して高くなっています。さらに今後 20 年間で全管路の 3 割が新たに老朽管に加わる（年平均 75 km/年増加）見込みです。



配水管の更新が進まない理由は、

① 大都市であること

高度成長期に急速に拡大した水道施設が、耐用年数を超過し、更新時期を迎えており、敷設時に未整備であった土地が、住宅やビル、道路の整備により複雑化し、更新が困難になっている。また電気・ガスなどの他企業との調整が必要（水道だけ単独で工事しにくい）。

② 人員の不足

大阪市では約 20 年前から公務員の人員削減が進み、配水管工事担当が慢性的に不足。なお、業務の合理化が進み、現在は配水管工事は民間企業への委託のみだが、業者の数が足りない。

③ 収益の減少

人口の減少や節水意識により、水需要は減少傾向にあり、配水管工事に使える予算も減っている。

水循環基本計画（R6 年 8 月 30 日に閣議決定）

新たに「重点的に取り組む内容」に「上下水道一体のウォーター PPP（Public Private Partnership の略、官民連携ともよばれる）を始め、官民連携や DX 導入等による事業の効率化・高度化」が盛り込まれました。

PFI 手法とは（Private Finance Initiative プライベート ファイナンス イニシアチブ）、公共サービスの提供に際して、公共施設が必要な場合に、従来のように公共が直接施設を整備せずに、民間資金を利用して民間に施設整備と公共サービスの提供をゆだねる手法のことで PPP は PFI も含んだ官民連携に関するより広い概念を表しています。

水道基幹管路耐震化 PFI 事業

大阪市では水道基幹管路耐震化 PFI 事業が始まっています。対象路線は約 38 km、事業期間は R6 年度～R13 年度の 8 年間。経営主体はウォーターパートナー大阪管路(株)で複数の企業が名を連ねています。

私たちは水道が日々の暮らしに欠かせない「生命の水」であることを改めて認識し、自分事として考えられる地域、社会をめざしていきたいと考えています。（水川晶子記）

食用廃油→SAFへ 大阪府内の自治体の取り組み

<吹田市の取り組み>

吹田市は、令和7年（2025年）3月15日に日揮ホールディングス(株)・コスモ石油(株)・(株)レポインターナショナル・合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY の4者と、「持続可能な航空燃料の普及促進に関する連携と協力に関する協定書」を締結しました。これは、持続可能な航空燃料である SAF※1の原料となる廃食用油回収の取り組みを拡大することを目的とし、この協定により、吹田市が SAF の原料向けに提供する廃食用油は年間でおよそ 27,000ℓ = 27t を見込んでおり（市立小学校及び市立保育園からの排出量を含む）、自治体が SAF 原料に再資源化する排出量としては、全国で最大となる見込みです。

また、様々な企業・自治体・団体が共同で実施する、家庭や飲食店から出る廃食用油（国内資源）を原料とする持続可能な航空燃料（SAF）で航空機が飛ぶ世界を実現すプロジェクト「Fry to Fly Project」※2に同日付で参加しました。

吹田市では平成21年（2009年）より公共施設に廃食用油の回収拠点（15か所）を設置し、行政回収を実施していましたが、家庭系約7t/年（表1参照）と小学校と保育園の給食から排出される約20t/年の廃食用油と合わせると約27tになる計算です。集まった廃食用油は(株)レポインターナショナルにより、堺市のコスモ石油堺製油所構内にある SAF 製造工場（国内初、2025年3月から稼働）に運ばれ SAF に生まれ変わり、航空機を飛ばすことができます。



江坂図書館の回収BOX
ペットボトルなどの容器で出す

表1 吹田市の廃食用油回収量（家庭系 15か所の拠点回収）

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
回収量(t)	6.53	5.82	7.16	6.78	7.29	7.43

なお、令和7年（2025年）6/1～8/31まですいたんの「回収ありがとう！」キャンペーンを行っていて、抽選ですいたんグッズがプレゼントされます。さらに吹田市内のコスモ石油サービスステーションに廃食用油の回収拠点を新規設置の検討をしています。

※1 Susustainable Aviation Fuel の頭文字をとったもので、持続可能な航空燃料と訳される。原料となるバイオマスや廃食用油、都市ごみなどの生産・収集から、製造、燃焼までのライフサイクルで、従来の航空燃料に比べて温室効果ガスの排出量を約80%削減することが可能。

※2 家庭や店舗などで発生する使用済み食用油を原料とする SAF を用いて、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト。プロジェクトは日揮ホールディングス(株)が中心となって設立し、設立趣旨に賛同する企業・自治体・団体が、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加している。

<豊中市の取り組み>

豊中市は日本航空(株) (JAL) と「廃食油を原料とした持続可能な航空機燃料製造推進に関する連携協定」を2024年2月に締結し、家庭から出た廃食油を拠点回収してSAF(持続可能な航空燃料) ※1にリサイクルする取り組みを始めました。豊中市には大阪国際空港(伊丹空港、豊中市蛍池西町)があり、JALからやりませんかと声掛けがあったそうです。自治体が航空会社と連携し、廃食油を回収する取り組みは西日本初です。

回収拠点はダイエー グルメシティ庄内店、イオンフードスタイル 豊中庄内店の2か所にあります。市民が「すてる油で空を飛ばうプロジェクト」に参加費200円(税抜き)で参加すると、1ℓ入る容器が進呈され、スーパー店舗の回収容器(いずれの店も1階 サービスカウンター前)に中身だけ入れるシステムです。廃食油は有価物としてJALが買い取ります。ペットボトルは可燃ごみになるので何度でもリユースできる容器を使用してもらうことにしています。廃食油回収業者が回収し、堺市にあるコスモ石油のSAF製造プラントに集め、航空燃料になります。

表2 現在の回収量:360ℓ(2025.4)

年	月	回収量
2024年 (令和6年)	9月	65ℓ
	10月	55ℓ
	11月	45ℓ
2025年 (令和7年)	12月	75ℓ
	1月	65ℓ
	2月	55ℓ



ダイエー グルメシティ
庄内店の回収BOX



JALオリジナルUCOボトル

<堺市の取り組み>

堺市はコスモ石油(株)、日揮ホールディングス(株)、(株)レポインターナショナルと持続可能な航空燃料 SAF 及びバイオプラスチックなどの原料となる使用済み食用油（以下「廃食用油」）の資源化促進を図るため、「持続可能な社会の構築に向けた廃食用油の資源化促進に係る連携及び協力に関する協定書」を 2024 年 11 月 22 日に締結しました。

2025 年 4 月 18 日から、市内 12 か所（うち 2 か所はイオンモール、10 か所はコスモ石油のガソリンスタンド）で回収を始めました。あと 1 か所のガソリンスタンドは準備中とのことです。これは堺市、コスモ石油、日揮 HD、レポインターナショナルが連携して進める取り組みでガソリンスタンドでの廃油回収は全国発の本格導入となります。



イオンモール北花田店の回収 BOX

国内初となる国産 SAF 大規模製造設備

これまで国産の SAF 製造工場がなく、海外の工場に製造を頼っていましたが、令和 7 年（2025 年）3 月、堺市のコスモ石油堺製油所構内に国内初の SAF 製造工場ができ、稼働を始めました。



完工した SAF 製造装置
(コスモ石油堺製油所構内)



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設
(コスモ石油堺製油所構内)

コスモ石油 HP より

前号 2024 年度 NO.6 2025.3.31 号の関本さんのコラム「ヤマノススメ」六甲編③で本文の一部の印刷が不鮮明であったため、お詫びしてここに記します。13 行目からです。

さて、六甲山の生い立ちですが、六甲山を主に形成する花崗岩質の岩塊は、白亜紀後の約 8,000 万年～7,000 万年前ごろに地下でマグマがゆっくりと冷えて固まってできたものと考えられています。

食用廃油の航空燃料化は幻影

はじめに

昨年ごろから食用廃油の航空燃料化（SAF化）の大キャンペーンがマスコミを賑わすようになってきた。一見するとよいことと思えるが、リサイクルに長年取り組んできた当会から見ると“？”現象である。

もともと食用廃油はこれまで主にホテル・レストラン等から回収され、回収業者が精製して石鹼や鶏用飼料の原料にしていた。家庭系の食用廃油は2000年初期には市民団体も回収していたが「逆有償」になってしまい止めざるを得なくなって現在続けているところは殆どない。

そこで当会は実情を調査すると「幻影」と思わざるを得ない実態が見えてきた。

（1）現状

1）マスコミ発表

- ① 東京都は昨年3月石油関連企業などと提携して食用廃油回収作戦に大々的に取り組み始めた。国が推奨する持続可能な航空燃料 SAF 化企画に応えたのである。
- ② 和歌山県は昨年5月エネオス・三菱商事と連携して40万klプラントの基本設計を開始すると発表。
- ③ 8月には豊中市がJALと連携して市内の食用廃油回収作戦を開始すると発表。
- ④ 本年3月には堺市のコスモ石油敷地内に3万klプラントが完成と発表。
- ⑤ コスモ石油が4月から食用廃油のSAF量産化に成功と訴えるTVコマーシャル。
- ⑥ 本年3月に吹田市が日揮ホールディングなど4社と協定を結び、現在市内15カ所で食用廃油を回収しているが、これを拡大し27klの回収を目指すとして発表。
- ⑦ 6月25日付日経に植田油脂が堺市と連携協定を結んだこと、和泉市はエネオスと、伊丹市はコスモと連携協定を結んだと書かれている。

2）グーグル検索による調査

ところが排出量のごく少ない食用廃油を回収して SAF にする企画は計画倒れになるのでは？と思って調べてみると以下のような問題点が浮上した。

- ① 年間排出量は40万t～50万tで9割は事業系、家庭系は10万t程度、内9万tは焼却され1万トンが回収されている。
- ② 引き取り価格は18ℓ入り容器一杯で180円とあるから10円/ℓ。一方SAF化する場合は120円/ℓ～180円/ℓである。
- ③ SAF化燃料の売価は200円/ℓ～1600円/ℓで、灯油と同質のジェット燃料価格約100円/ℓ程度の2倍～16倍とのこと。混合率は国際規格で50%以下。EUは2%以上を義務化しているが、現状は0.03%。飛行機1台の燃料タンクに170kl積み込めるから0.03%では51ℓと‘雀の涙’。
- ④ 40万klのプラントに万tの食用廃油を集中しようとする必要があり、全量を全国から回収し和歌山に輸送する必要がある。また堺市の既に建設された3万klプラントは大阪府の食用廃油を全量堺市まで輸送する必要がある。しかしタンクローリーを満杯にする時間がかかるし、輸送距離が長くなる問題がある。またプラントをごみ焼却炉のように連続運転するのか間欠運転するのか不明だが輸送の問題を考えると間欠運転になり効率が悪くなるリスクが高まる。この問題を堺市の環境政策課に問い合わせると3万kl/日でなく3万kl/年であるとのことであった。課題は小さくなっただけで依然として残る。

- ⑤ 食用廃油の SAF 化プラントは、堺プラントが第 1 号のようであるが、それ以外のバイオマスの SAF 化プラントは既に稼働していることが「レボインターナショナル」の HP によりわかり、京都市には 30 kl/日プラントが稼働している。

この会社は吹田市の食用廃油を堺市のプラントまで運送するとのことである。

3) 予測されるリスク

これらの課題を克服すると石鹼・飼料への影響は激震となるなるが強くなる。ホテル・レストランは 10 円の十数倍で買ってくれるなら売ると予想されるし、SAF 化燃料は 2 倍～16 倍と高いが航空業界は第一ハードルの EU の 2% 義務付けを達成するまでは“雀の涙”程度のコスト増で済むからである。

- ① 影響を受ける石鹼業界を見てみると、第 1 に合成洗剤のシェアが圧倒的に多い。第 2 に新品の原料が多く食用廃油を原料にしているのは石鹼派の生協ぐらいで使用率は検索しても出てこない。また食用廃油は環境省のデータでは 11% が石鹼原料になっているとのことであるから影響は小さいと思われる。
- ② 次に鶏卵生産業界の飼料を「検索」してみると、3 大栄養素のバランスを考え脂肪分は主に魚粉と書かれ食用廃油分は書かれていないから少ないと思った。しかし鶏卵価格が上がる要因の一つと考えられるから、「全国油脂事業協同組合連合会」HP をみると、回収量 38 万 t の半分の 20 万 t が飼料になっている。また飼料用油脂 40 万 t の半分が食用廃油由来であることが分かった。グーグル検索はこのデータを拾っていないのだろうと思われる。

以上の検討から食用廃油の SAF 化が成功した場合市民は鶏卵価格があげるといふ被害を被ることになるが、マスコミはアメリカ産のトウモロコシ価格の上昇と報道するだろうから支援団体は実情を知らせる取り組みを強化する必要がある。

4) 食用廃油回収・精製業者への影響

和歌山県が連携したのはエネオス・三菱商事だけでなく、家庭系食用廃油をスーパーから回収することになった植田油脂社も協定を結んでいる。この会社は大東市にあり食用廃油が脚光を浴びるはるか前の 1966 年から操業している老舗である。植田油脂は行政やスーパーに働きかけ回収場所を設置してもらい本年 2 月現在約 200 拠点となっている。またペットボトル製の回収容器を協力市民に貸与し、使用済みの容器の水平リサイクル化を委託している。豊中市と協定を締結した JAL が協力スーパーで回収容器を販売してもらう施策を実行しているのと雲泥の差である（豊中市の実情調査参照）。どちらも SDGS を標榜しているが、静脈産業の植田油脂は回収量を増やすには市民の協力が必須要件であることを熟知して実行しているのに対し、動脈産業の JAL はプロパガンダは上手いが現場で汗をかく人を大切にせよと説いた故人の元稲盛会長の教を社内人だけに止める文化しか持っていない。

5) 豊中市が抱える矛盾（豊中市調査参照）

- ① 協力したい市民は回収容器を 200 円/個で買い持ち帰る必要がある。回収容器はペットボトルでなく、リユース可能な容器とのことだが、自ら洗浄しないと汚れてしまい次回に使い難い問題を知らぬふりしている。
- ② 回収場所は庄内という南区域の一地区だけである。
- ③ 堺市のプラントへの搬入計画

④ 半年間の回収量は 360 ℓ、月平均 60 ℓ であり、3 万ℓ/年の 2.4%になる。

6) 吹田市の現状

① 市内 15 か所の回収実績は小学校・保育園の給食から出る食用廃油 20 t /年及び家庭系 7 t /年の合計 27 t /年となる。給食後の食用廃油はホテル等と同じく事業系に該当する。

② 堺市のプラントへの搬入計画

7) 堺市の現状

① 回収場所は市内のスーパーとコスモ石油の 10 か所の ST。吹田市と違い公共施設が回収拠点になっていないこともあり環境問題に関心がある市民に尋ねても全員が知らなかった。

② 回収量は 3 月現在 679 ℓ との報告があったが、その後は 6 月 17 日現在ないとのこと。

8) まとめ

① 3 市を始めどの自治体もリサイクルには市民の協力が必須要件と自覚して諸施策を実践しているが、今回のような企業側の申し入れには、表面上の協力しかできず「協働」関係を創れない矛盾がよく表れている。特に JAL と協定を締結した豊中市にその矛盾が顕在化している。

② 市民との「協働」関係を築いている植田油脂株式会社は大企業のプロパガンダと承知しながら、回収協力することで売り上げを増やせるメリットはあるが、一方で鶏卵業界という小企業との長き良き関係を持続 (SDGS) する精神を遵守する方針である。

③ レポインターナショナルは既に多量に入手できるバイオマスの調達ルートを持っているはずであり、少量の経済効率が非常に悪い食用廃油は“あてうま”に位置付けている恐れが大で、投資額を増加させる IR 戦略の一環であろう。

④ 堺市の 3 万ℓ/年のプラントは、大阪府下の全市町村がその気になって食用廃油を全量輸送しても、年 1 回稼働するだけの贅沢極まるデモンストレーションプラントになることは必至である。

(森住明弘記)



「〇〇さん」

加藤 昌彦

6月2日の朝日新聞を見て驚きました。刑務所のなかで受刑者を刑務官が呼ぶときに、「さん」付けで呼ぶというのです。私が驚いたのは、人様を呼ぶのに「さん」付けで呼ぶからではなく、冤罪やパワハラや古い体質をもつ法務省の下で、突出した先進例と思えたからです。改正された刑法が6月1日に実施されましたが、それに伴うもので、すでに「さん」は実施されているといえます。

私は今、78歳。刑務所に入っている人の多くは、再犯者で高齢者や病者が多いといえます。少額の物を盗み、軽犯罪で捕まった人たちが多数です。刑務所から出るよりも、刑務所にもどった方が、仲間もいるし、住と食の心配もいらないから安心がある人も多いです。そういう刑務所太郎さんや、花子さんがたくさんいます。孤独と貧困の哀しい日本の一断面です。

その人を支える人や組織さえあれば、塙の中に閉じ込められることにはならなかった人が多数です。その人たちは、すでに多くの仕事を社会人としてされてきました。その人たちが、人生の何たるかを学び始めた若い刑務官から、「おい加藤」と呼び捨てにされたら・・・、

罪は法によって罰に服さなければなりません、世間に普通にある、年上の人にたいする、また、一人の人としての敬意の欠如した言葉は、おそろしく身に沁えると思います。言葉による打撃を少しでも減らすこと。拍手です。

部落差別の撤廃のために人生を捧げた、西光万吉という人は、人を呼ぶときに、必ず「〇〇さん」と呼び、通信の中でも「〇〇様」と書きました。1895年生まれの方です。

私は西光万吉の「さん」を知って、年下の人であろうと誰であろうと、「さん」と呼ぶことにしました。しかし、私の根深い上下の体質はおそろしく、同じ職場で働いていた後輩の方には、なかなか「さん」と言えませんでした。言えるようになるまでに、少し歳月が必要でした。大学で話すようになって、男子でも女子でも「さん」と呼びました。ある時、授業のコミュニケーションカードで、「先生を加藤さんと読んでいいですか？」という学生が現れました。私の体は固まっていた。しかし、返事には、「どうぞ」と書きました。

大阪大学の女性の先生で、学生に対して「私を〇〇さんと呼んでね」という先生がおられました。人権問題に関係する私の周囲でも、初耳でした。もう30年も前になっていますが、「さん」はどう変化しているのでしょうか。刑務所の中の方が進んでいるのでしょうか。世間の方が進んでいるのでしょうか。老兵は聞きたいものです。

しかし、アメリカから来た先生などは、かなりの先生が、たとえば「私をジョージと呼んでください」という。そこのところは、日本人の先生とは天と地の差があります。

日本の教員は多く、学生を上からみえています。日本の子どもたちは自尊心がたいへん低いです。自分をダメな人間と思っています。そして勉強すればするほど、自分はダメな子と思う子どもが増えていきます。勉強が嫌いな子どもが増えていきます。刑務所のウチソト。「さん」「さん」「さん」と明るくなればいいですね。ダジャレですみません。